

## 4. 少女たちへの雨水貯留容器トレーニングと設置 (ウガンダ)

- 実施団体: SORAK DEVELOPMENT AGENCY (#002)
- 実施地: ウガンダ Mubende県 Lusalira交易センター
- プロジェクト予算: 1,738ドル (JWFファンド1,500ドル、団体138ドル、受益者100ドル)
- 受益者数: 5,000人 (男性1,000人、女性1,000人、子ども3,000人)
- 実施地の水問題:

ウガンダの農村部に住む人々は、安全でない水や限られた衛生設備、不十分な手洗い習慣等によって汚染された水に起因する病気に罹りやすい。人々の多くが基本的な水へアクセスできず、基本的な衛生設備がなく、石鹼を使って手を洗うことが出来ない。都市封鎖され水と消毒液が必要な状況の中、子どもたちは遠くまで水を探しに歩かなければならない。



安全ではない水源から水を汲む少女たち

- 主な活動内容: 少女20人の選定と雨水貯留容器 (500リットル) づくりと販売ノウハウ等のトレーニング、10世帯への雨水貯留容器設置、対象地域内での宣伝カーによる手洗い重要性の広告5日間、水質検査
- 特長 (持続性): 少女たちが雨水貯留容器の製造スキルとビジネススキルを身につける
- 団体: 2003年設立から脆弱な女性や若者、子どもたちの生活向上に取り組む。2020年にも50人の少女を対象とした同様のプロジェクトを実施した。

# JWFファンド2021 完了報告 概要

## 4. 少女たちへの雨水貯留容器トレーニングと設置 (ウガンダ)

### 実施中の様子



雨水貯留容器の基礎  
設置作業



雨水貯留容器の本体  
製作

### 現場からの声 (抜粋)



Tusiime Aminahさん  
(女性、70歳、利用者)

身体に障がいがあり2本の杖を使って生活しているため、水源から水を運ぶことができませんでしたが、このプロジェクトのおかげで今では安全な水にアクセスできるようになりました。実施団体であるSORAKと日本水フォーラムに大変感謝しています。

### 実施後の様子



雨水貯留容器からの  
給水状況



少女たちへの教育活動



Kyamanyina Yosamさん  
(男性、45歳、障がい者カウンセラー)

取り残されがちな障がい者に配慮いただき、また少女達を指導し、彼女たち自身にも明日に向かう大事な市民であることを力強く認識させてくれたこのプロジェクトに感謝します。